

誕生日に母を語る

誕生日は年に一度自分を産んでくれた「お母さん」を思う日…。



母と一緒につくる 夢の架け橋

猪原光(35歳/国立市)

35歳の誕生日を迎え、今年が一番うれしい誕生日となりそうなきら。実はこの年にして、母との不思議な時間を過ごしている毎日です。

私は教師をしていた両親の後ろ姿を見て育ちました。母は定年退職するまで、小学校の教師として働いていました。40代の折、うつになり、教師をやめる寸前までいきました。厳しい親ごさんの要求に心身ともに疲れ…。40人の子どもたちと親ごさんの心を支えるのに、疲れ切った母の背中に、ただただ、私も一緒に小さくなるばかりでした。

にありました。しかし、どこかピンとこなかった私も親になり、いろいろ考えるようになり、教師にも家族があり、先生もお母さんです。

母は、みんなのお母さんでしたが、私のお母さんをする時間はほとんどありませんでした。早朝から出勤。授業に教材の準備、会議に面談。自宅ではテストの丸付けに教材の準備、親ごさんからの相談電話の対応、行事の準備…。

私たちが寝ている部屋の間で、小さな灯りで夜中まで作業をしています。仕事で面談に来られない親ごさんを、夜まで学校で待っていた母。誰が私の保育園に迎えにきてくれるでしょう。私の行事に、母の姿はいつもありませんでした。

これが、定年まで教師をするという。私のお母さんは、学校のお母さんでした。私も母となり、子どもたちに夢を届けたいと感じるようになり、娘と子どもたちの学びの場に、何かお手伝いできないか？

たまには仕事を家庭に持ち込もう

text: 木村 乃
bizデザイン株式会社 dk@biz-design.co.jp



「家庭に仕事は持ち込まない。仕事とプライベートはきちんと分ける」。そんなセリフを、時々耳にする。通勤サラリーマンに多い。農家、八百屋、魚屋、大工、旅館などの家業を営んでいるお宅ではどうだろう。

子どもは家業の手伝いを通じて、あるいはお父さん、お母さんの背中を通じて親の仕事をよく理解しているだろう。

親は子にとって成長のための「鑑」だ。ちょんまげの時代にだって通勤サラリーマンはいたが、職業世襲の時代だったから「家業」に対する気構えが親から子に伝えられていたに違いない。

この国で、世襲でもなく家業でもない職業=現代の通勤サラリーマンが一般化したのは、都市化が進んだこの50年くらいにすぎない。

何万年も続いてきた親から子への仕事の伝承が、今、通勤サラリーマンを中心に途絶えようとしている。こういえば大袈裟かもしれないが、たまには、仕事を家庭に持ち込んでみてはいかがですか。

ねっ、お父さん。

オババの育児日記

We're Buddy

7月30日7時30分、お母さんたちが夢に乾杯するというイベントが、横浜で開催された。この日のテーマは「シンデレラ」。日頃、子育てに追われているお母さんたちが、この日はとびきりおしゃべりし、仲間と夢を語り合った。



タキシード姿でポーズをとるたっくん

パーティーにはタキシードを身にまとい、王子様役で参加したたっくん。シンデレラになったお母さん(池田彩さん)のエスコートをするように、オババから任命されていた。いや、オババに仕掛けられた。

音楽に合わせて、シンデレラと小さな王子様が手をつないで会場に登場するという場面。事前にこうしてほしいと言うと、きっとやってくれないだろうと、リハーサルもなしのぶっつけ本番。オババはたっくんに念力をかけた。

そうは言いながらも、ちゃんと登場してくれるかドキドキだったが、さすがオババの孫!音楽が流れると、美しい池田さんと手をつないで歩いて来るではないか。「たっくん、エライ!」。しかし…。緊張のレベルを超えて二次元の世界にいるかのような形相のたっくん。ひえっ、顔が歪んでいる!

4歳の小さな心に、トラウマとなって残ってしまったらどうしよう。が、企画の責任者としては、心を鬼にした。なぜならたっくんには、シンデレラとダンスをするという仕事が、まだ残されていたのだ。

司会者が「たっくん!シンデレラのダンスのお相手をお願いできませんか?」と言うと、すかさずたっくん、「イヤイヤ」と首を横に振った。さて困った。シンデレラと踊ってくれる王子様がいないければ、会場はシラける。一瞬、会場に緊張の空気が流れる…。

が、そのとき!なんとホンモノの王子様(池田さんの夫)が登場!企画は大成功!オババは、たっくんがダンスを断ることを想定してシナリオをつくっていたのである。作戦は見事に成功。たっくんが、もしあの場でダンスをすると言ったら、ホンモノの王子様は出番がなかったわけだ。さすが、オババとたっくんは、仲間=We're Buddy だね!(オババ)



ホンモノの王子様(夫)と踊るシンデレラの池田さん

緊張を超えて、放心状態のたっくん!

落というところですが、これからはみんなで関わりを持ちながら、社会を育てていきたいと思えます。

夫の剛さんは、町会議員でもあり、朝昼となく、町と農業の発展に力を注いでいます。「私の夢は、山や畑、田んぼや里山などの自然が荒れないように守っていくこと。そういう地域社会をつくること」と、さち子さん。

そして、「できれば、子どもたちには、夢を継いでもらいたい」と、最後に本音もチラリ。子どもたちは、お父さん、お母さんの生きる姿を見て育っていますから、きっと大丈夫に違いありません。

日本人の主食であるお米を守り育てる杉浦夫妻の新米は、9月から出荷。全国においしい笑顔が広がるでしょう。

*** 読者プレゼント ***

杉浦農園のお米 新米白米 5kg

3名様(3700円相当)

今回のお届けは、コシヒカリ、ひとめぼれのブランド米。噛めば噛むほど味が増していく濃厚な味を堪能してください。

●応募は「新米希望」と書いて、FAX・メールで編集部まで(締切9/30)。〒住所、氏名、TEL、本紙入手先、新聞感想をご記入ください。

「それでもこのあたりは、顔の見える地域」というのでしようか。私が農作業に忙しい、子どもの話も十分に聞けないときなどは、ご近所の奥さんが、お宅の息子さん、こんなことして遊んでいたよと必ず教えてくれた。地域の大人が子育てを支え合い、その頃はとも助けられましたね。早いもので、それから十数年。今は25歳、23歳と、19歳の大学生。わが家の子育ては一段

知多半島は、里山と海に囲まれた、愛知県でも有数の農作物の生産地。この地で30年、稲や野菜を無農薬・低農薬栽培でつくっている「杉浦農園」の杉浦剛さんとさち子さん夫妻は、「にんじんCLUB」で一番人気のお米の生産者です。気さくな人柄とさわやかな笑顔が印象的な2人。有志を募り行っている毎年恒例の田植えツアーでは、消費者の皆さんとわきあいあいの交流を

「わが家は3人ともやんちゃ坊主でしたから、子どもの頃は、どこにでも落書きをしたり、次々といたずらをしてかしたりで、それはそれは大変でした(笑)」と当時を振り返るさち子さん。

「それでもこのあたりは、顔の見える地域」というのでしようか。私が農作業に忙しい、子どもの話も十分に聞けないときなどは、ご近所の奥さんが、お宅の息子さん、こんなことして遊んでいたよと必ず教えてくれた。地域の大人が子育てを支え合い、その頃はとも助けられましたね。早いもので、それから十数年。今は25歳、23歳と、19歳の大学生。わが家の子育ては一段



杉浦さち子さん、剛さん

取材協力 ● にんじん CLUB <http://www.ninjinclub.co.jp/>

にんじんホームキッチン <http://www.ninjin-hk.net/>

●池川クリニック 横浜市金沢区大道2-5-13 TEL045-786-1122

宇宙人アミの世界

皆さんは「アミ」小さな宇宙人」という本をご存知ですか。1991年に出版された本で、著者はエンリケ・パリオスという方で、世界で11種類の言語に翻訳されている超ロングセラーです。最近、宇宙船(いわゆるUFO)に乗ったことがあるというヒーローの女性から、話を聞く機会がありました。そこで紹介されたのがこの「アミ」でした。



池川クリニック院長 池川 明

●東京大学医学部大学院卒。医学博士。1989年横浜市に、産婦人科・池川クリニックを開業。「胎内記憶」の研究発表がマスコミで紹介され話題に。著書やDVD多数。

この本を読んで驚いたのは、私が胎内記憶で子どもたちから聞く内容と同じことが何箇所も出てきたということです。子どもたちと宇宙人「アミ」の語ることが同じならば、子どもたちの言うことを信じていけば、世の中が平和になるのではないかとさえ思えます。

人間の中の順位は、①愛 ②意識 ③思考の順だそう。地球では最高だと思っている賢者、物知りは思考が優れているだけなので、順位としては3番目になるそうです。そういうえば「胎内記憶はない」といっている人たちは、きっと思考は、レベル3なんだろうなあと考えてしまいました。

脳には2種類の脳があるそうです。普通の人が考える「知的な機能」としての脳と、「情緒」の脳で、多くの人は「知的な機能」の脳だけが脳だと思っている、それは「歩く知的な機能」としかいえないそうです。

自分を指さすときにはどこを指しますか? たいしては自分の胸を指さすはず。そこが「情緒」の脳のある場所だそうです。そこを育てるには感性や知覚を大切にする必要があります。まさに、お産で私が産婦さんに伝えたいことを的確に表現してあって驚きました。さらに驚いたのが、「われわれの最大の幸福は、人に奉仕し、援助すること、そして人の役に立っていると感じられること」によって得られるもの」という言葉です。

「私たちは何のために生まれてくるの?」と質問したときの子どもたちのぶれない回答。「それは人の役に立つためだよ」という答えと同じだと思いました。結局、人の役に立つことで自分自身が幸福感を持つことが、生きて生まれることの意味であると、再確認した次第です。



著者/エンリケ・パリオス 発行/徳間文庫 価格/580円(税込)